

第 1 回

カタカナ用語表記に関するアンケート報告書

テクニカルコミュニケーター協会

2001年9月

目次

はじめに	24
1. 「カタカナ表記ガイドライン」に関するアンケート調査概要	24
1) アンケート調査の目標	24
2) アンケート調査実施要領	24
3) アンケート調査結果概要	24
4) アンケート調査結果から抽出された課題	25
2. カタカナ用語表記に関するアンケート項目	26
3. アンケート集計結果	28

はじめに

TC 協会カタカナ表記検討ワーキンググループ(以下カタカナ表記検討 WG)は、2001 年 6 月、「カタカナ表記ガイドライン」に関するアンケートを行いました。アンケートの目的、概要、分析結果などは以下のとおりです。

1. 「カタカナ表記ガイドライン」に関するアンケート調査概要

1) アンケート調査の目標

マニュアル制作をはじめ、ユーザーインターフェースデザインなどの業務において用語表記規定を決めるとき、何の基準に従うか、また規定がどこまでの強制力を持つのかなどは各社、各製品ごとに違います。また、カタカナ表記自体が時代とともに揺れていくという現状からも、どの時点で規定を見直すのかという問題もあります。そこで、TC 協会に加盟している各社におけるユーザー向けの用語表記規定の有無や使用されている現状をアンケート調査した上で、最も迷う事が多いカタカナ表記の用例集をまとめ、それらのガイドライン制定の可能性を探ることを目標としています。

2) アンケート調査実施要領

- 調査対象企業： TC 協会の理事会社を中心とした法人会員および非会員約 70 社・団体のマニュアル制作担当部門、デザイン部門、社内標準部門など
- 実施時期： 2001 年 6 月
- 調査方法： 調査票郵送、自由回答、一部直接聞き取り調査

3) アンケート調査結果概要

- カタカナ表記全般について、ばらついている。その範囲は、業界間、企業間、製品間と計り知れない。
ばらつきの例： レーザープリンタ/レーザープリンター/レーザプリンタ
カウンタ/カウンター
コントローラ/コントローラー
スキャナ/スキャナー
サーバ/サーバー
- 標準とすべきルールやガイドラインが業界その他に存在しない。

4) アンケート調査結果から抽出された課題

- 表記統一の必要性
 - 業界間で表記が異なる：例) 業種間、製品間でのばらつき
 - 会社間で表記が異なる：例) 同一製品分野間でのばらつき
 - 登場箇所によって表記が異なる：例) カタログ、マニュアル、製品本体（画面）間でのばらつき
- 表記ガイドラインの必要性
 - 業界、製品分野によって表記ルールが異なる。
 - 参考にすべきルール、ガイドラインがない。またそれらを規定する団体も存在しない。

2. カタカナ用語表記に関するアンケート項目

該当する にチェックマークをご記入ください。また()内に適切な回答をご記入ください。

Q1 : 貴社またはあなたの組織では、外来語のカタカナ表記に関する独自のガイドライン、ルール、用例集などをお持ちですか。

- 持っている Q1-1 へ
- 持っていない Q2 へ

Q1-1 : そのガイドラインなどはいつ頃作成されたものですか。

(例 : 昭和 53 年) 頃

Q1-2 : メンテナンス、改訂状況はいかがですか。

- 定期的に改訂している
(どのくらいの頻度ですか)
- (どなたが改訂されていますか)
- 必要に応じて改訂している
(どのようなタイミングですか)
- (どなたが改訂されていますか)
- 改訂されていない

Q1-3 : そのガイドラインなどの活用度はどの程度ですか。

- 全社的に活用されている
- 特定の用途で活用されている
- あまり活用されていない

補足情報がありましたら下記にご記入ください。()

Q1-4 : そのガイドラインの規制の強さ(強制力)はどの程度ですか。

- 標準として守らなければいけない
- できるだけ守るようにしている
- あまり守られていない

補足情報がありましたら下記にご記入ください。()

Q1-5： そのガイドラインなどの適用範囲はありますか。該当するものすべてを選んでください。

- マニュアル
- カタログ
- 製品
- 広報（ニュースリリースなど）
- その他（具体的には、）

Q2： 貴社またはあなたの組織で、用語表記に参考（ベース）にしている辞典、規格は何ですか。

- 辞典（ ）
- 規格（ ）

Q3： 下記に示すカタカナ表記の例で、現在貴社またはあなたの組織で使われている用例をお選びください。

複数使われている場合は、複数お選びください。また、選択肢以外の用語が使われているときは、その用語を右側にお書きください。使われていない場合は、選ばなくて結構です。

英語の語末の er、or、ar、y 等をカタカナで表示する場合、原則として長音符号「ー」を用いる。

- （例） インジケーター（indicator）、センター（center）、
- エネルギー（energy）、シャッター（shutter）

ただし、慣用またはその専門分野における用語により、長音符号を省くことが一般的となっている場合は、これに従う。

- （例） コンピュータ（computer）、メモリ（memory）、
- プリンタ（printer）、モニタ（monitor）

Q4： 貴社またはあなたの組織における現状カタカナ表記での課題、問題点は何ですか。

Q5： 貴社またはあなたの組織では、用語に関するルール（規定）づくりの専門家や担当者がいますか。

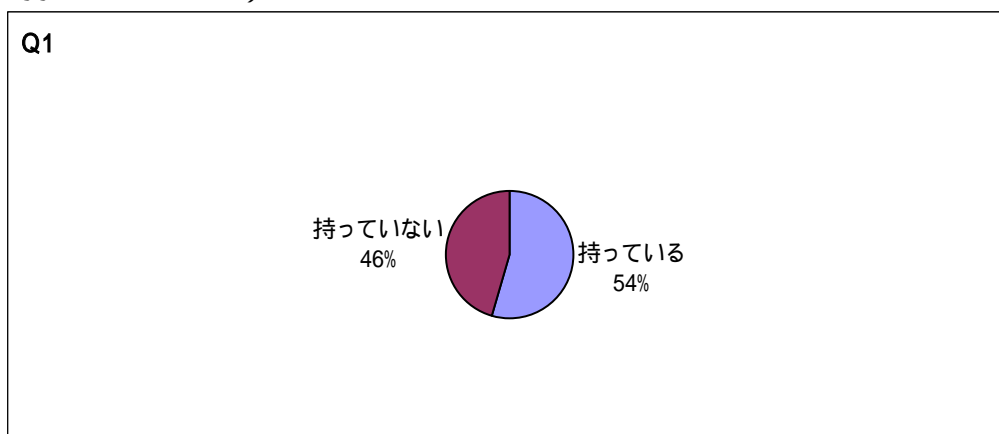
- いる（ ）人
- いない

3. アンケート集計結果

Q1：貴社またはあなたの組織では、外来語のカタカナ表記に関する独自のガイドライン、ルール、用例集などをお持ちですか。

持っている（54%）

持っていない46%）



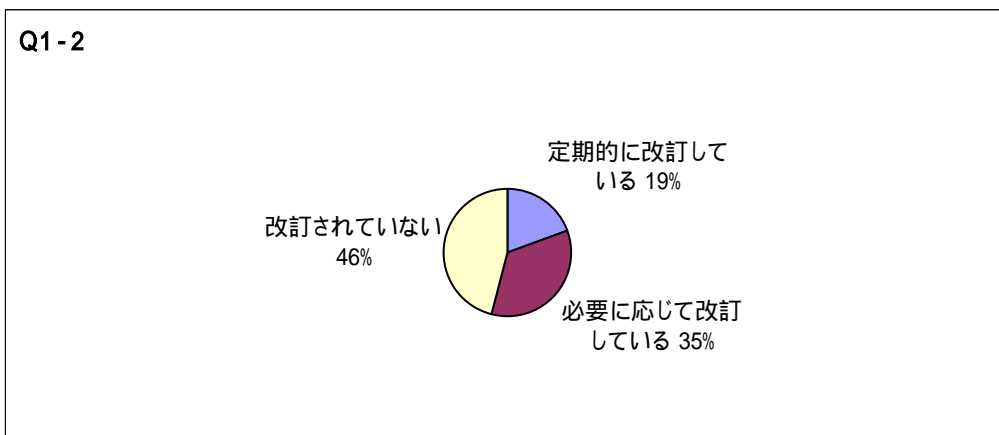
持っていると回答した54%を対象に、以下Q1-1からQ1-5について質問しました。

Q1-1：そのガイドラインなどはいつ頃作成されたものですか。

（（例）：昭和53年）頃

年頃	社数
1975	1
1976	1
1978	1
1980	1
1982	1
1990	2
1991	2
1992	1
1993	1
1994	1
1995	2
1996	1
1997	3
1998	2
1999	1
2000	2
2001	1

Q1-2 : メンテナンス、改訂状況はいかがですか。



定期的に改訂している (19%)

(どのくらいの頻度ですか)

- 年1回
- 3年に1度だが、必要があれば途中でも改訂しています。
- 半年に1回程度、ただしカタカナ表記に関する部分は「内閣告示に従う」ため改訂版のタイミングに依存している
- 5年程度
- 少なくとも5年毎

(どなたが改訂されていますか)

- 専任ではないが決まった担当者
- 社内取扱説明書技術委員会
- 部署内のソフトウェアマニュアル規則制定のためのWGで改定案を作成しています
- 分科会
- 全社基準管理部門

必要に応じて改訂している (35%)

(どのようなタイミングですか)

- 出稿企業から要求に応じて
- 新しい用語・用例が出てきた場合
- 個別内容が変更になる程度
- 各種ガイドラインの統合、見直し
- 使用が合わないと感じたとき
- 電子化されている
- 検討中です

(どなたが改訂されていますか)

- 制作責任者
- その仕事を担当する編集者
- 全社取説事務局
- プロジェクトチーム
- 特に決まっていない
- 社内の用語統一委員会

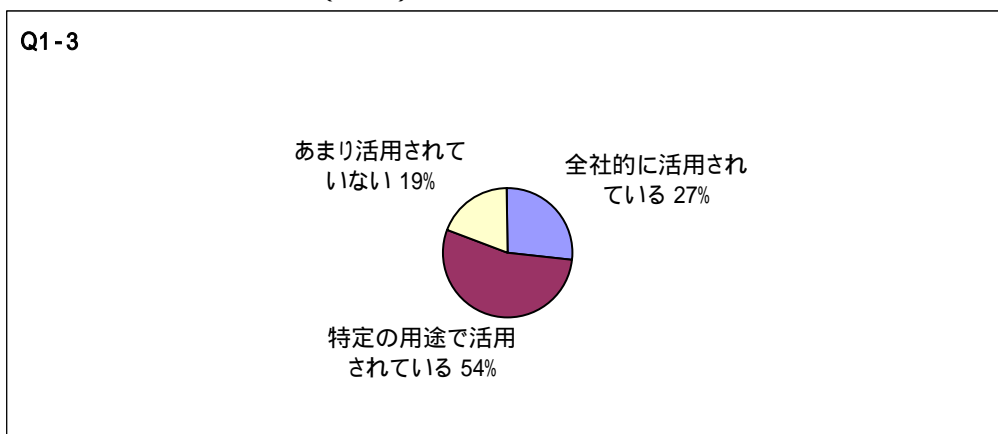
改訂されていない(46%)

Q1-3 : そのガイドラインなどの活用度はどの程度ですか。

全社的に活用されている(27%)

特定の用途で活用されている(54%)

あまり活用されていない(19%)



補足情報がありましたら下記にご記入ください。

- 仕事の内容によっては、クライアントからの指定がある
- 当社は家電メーカーを主な顧客とする印刷会社であり、メーカーの定めた基準に従うことが多いため。
- UI 画面表示に対応したガイドとして使用している
- 事業部専用のガイドライン
- 取扱説明書制作用ハンドブックの一項目として決めている
- 得意先に執筆基準がある場合は得意先の執筆基準を優先し、ガイドラインは補足として使用する。
- 迷ったときのよりどころとしている
- 標準的なもののみなので
- 全社的なものとして作成しましたが、現状は運用し始めたばかりであり、ガイドラインもまだ完全なものではない
- 部内で活用している
- 事業部として決めたルールを運用している

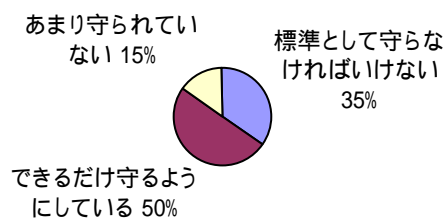
Q1-4 : そのガイドラインの規制の強さ（強制力）はどの程度ですか。

標準として守らなければいけない（35%）

できるだけ守るようにしている（50%）

あまり守られていない（15%）

Q1-4



補足情報がありましたら下記にご記入ください。

- お客様毎に若干の違いがある
- チェックする機構はないので、担当者の判断を基準としている
- 新しく出てくる用語が多く、用語などのメンテナンスが追いついていません
- 基本的に得意先のガイドラインに準拠するため
- 医用機の細かい分野で使われている専門用語を優先させている
- 標準として守らなければならないが、ガイドラインがまだ完全ではないのと、これまでの流れから直ちに適用できない用語があり、例外の余地も残している

Q1-5 : そのガイドラインなどの適用範囲はありますか。該当するものすべてを選んでください。

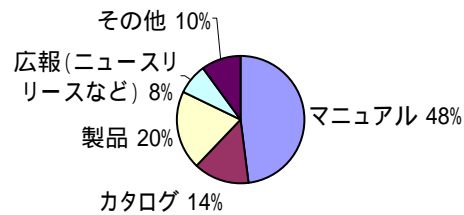
マニュアル (48%)

カタログ (14%)

製品 (20%)

広報：ニュースリリースなど (8%)

Q1-5



その他

- ソフトウェア翻訳
- 取扱説明書と社内の技術用語と別にガイドラインがあります。一般消費者に対する表記のガイドラインとしては、取扱説明書のガイドラインのみです。
- オンラインヘルプ
- 部品データベース
- 製品への表示ガイドラインをマニュアルに適用している

Q2 : 貴社またはあなたの組織で、用語表記に参考(ベース)にしている辞典、規格は何ですか。

辞典

- 朝日新聞の用語の手引き (9社)
- 必携 用字用語辞典 第四版 三省堂
- 広辞苑 (6社)
- 日経BP 文章・用字用語ハンドブック (6社)
- 記者ハンドブック(共同通信社)
- NHK 編 新用字用語辞典 (9社)
- 日経BP デジタル大辞典
- クライアント複数で作成したルール、参考取説など
- 現代国語表記辞典
- 日経パソコン新語事典
- 毎日新聞用語集

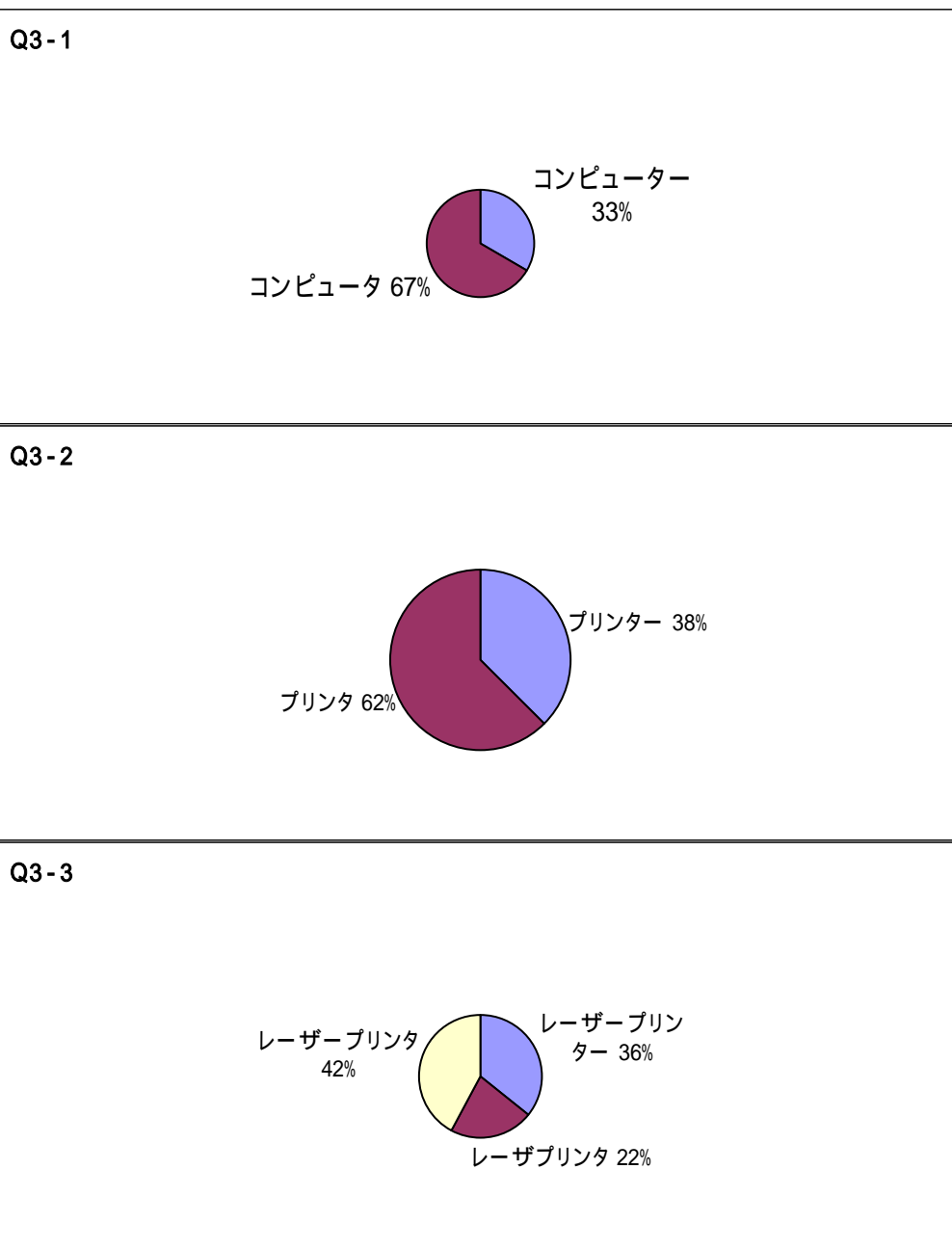
- 新しい国語の表記 (2社)
- 各国語辞典最新版
- 日本エディタースクール標準構成必携
- 共同通信「用字用語」
- パソコン用語辞典
- ソニー技術用語活用事典
- 補修用部品名称マニュアル
- カタカナ語の辞典
- 基本外来語の辞典

規格

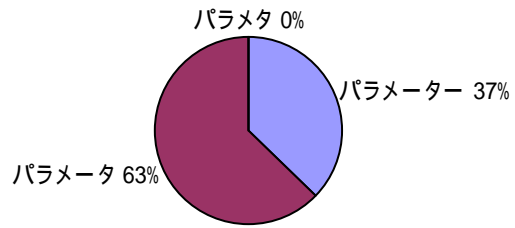
- 文章・用字用語ハンドブック
- マイクロソフト社 日本語スタイルガイド第3版 (2社)
- 顧客の定めた規格各種 (2社)
- TC協会マニュアルセミナーの資料等
- JIS (2社)
- 国語審議会報告「外来語の表記」 (3社)
- 各工業会の使用例
- JIS規格 (2社)
- 組織内で共通の規格はなし
 - 画面表示など説明の対象となるものは表記に従う
 - クライアントの要望や事前の取り決めを行う場合もあり
 - シリーズ製品に於いて、個別にルールを決める場合がある
- JISハンドブック (2社)
- JBMA (2社)
- UI用語ガイドライン (2社)
- 松下Gの社内規格 (2社)
- 社内規格 (4社)
- EIAJ CP-1104
- 富士通情報処理用語集になればJIS用語集に従う

Q3 : 下記に示すカタカナ表記の例で、現在貴社またはあなたの組織で使われている用例をお選びください。

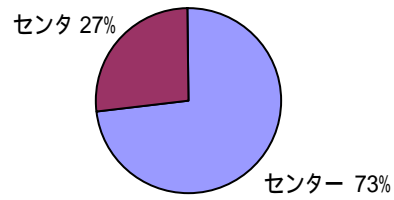
複数使われている場合は、複数お選びください。また、選択肢以外の用語が使われているときは、その用語を右側にお書きください。使われていない場合は、選ばなくて結構です。



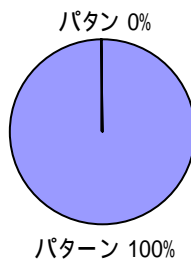
Q3-4



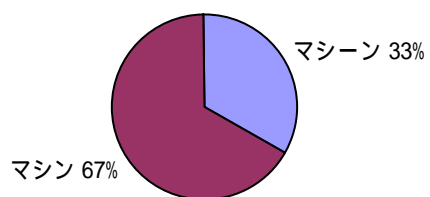
Q3-5



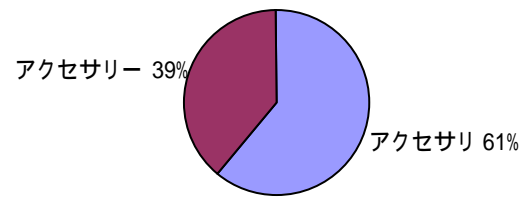
Q3-6



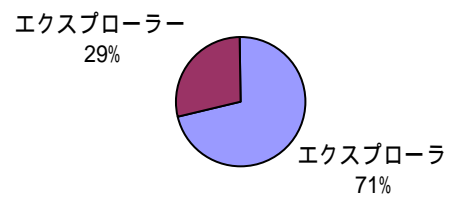
Q3-7



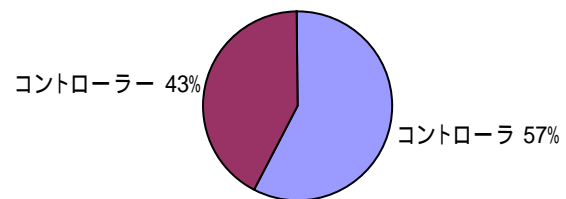
Q3-8



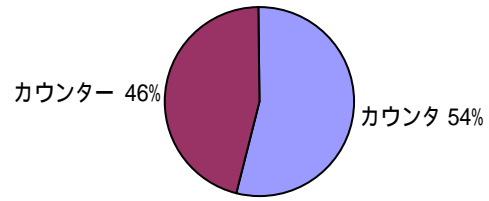
Q3-9



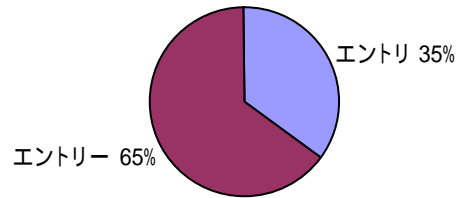
Q3-10



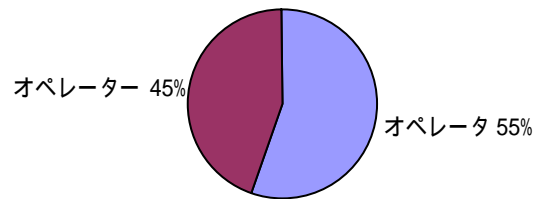
Q3-11



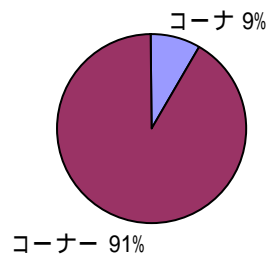
Q3-12



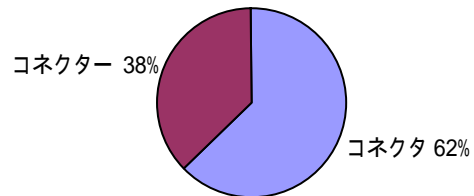
Q3-13



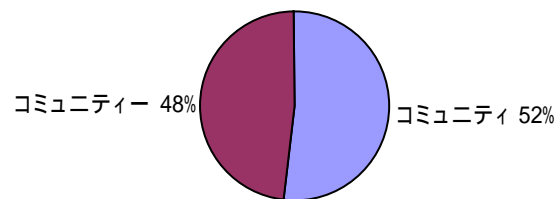
Q3-14



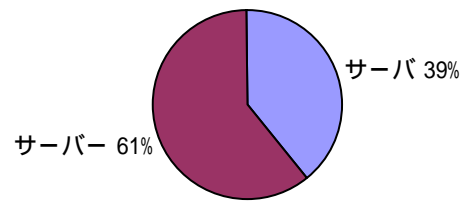
Q3-15



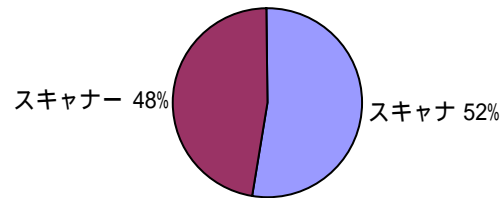
Q3-16



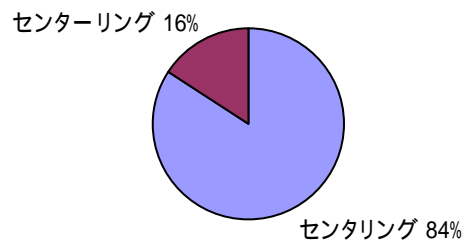
Q3-17



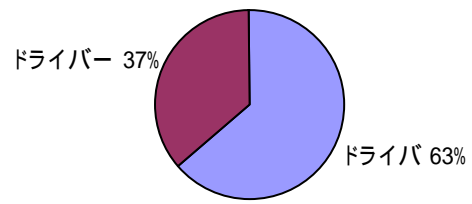
Q3-18



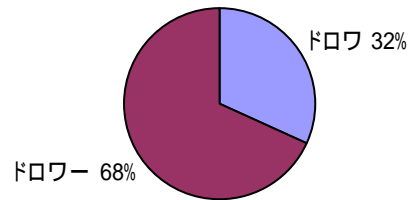
Q3-19



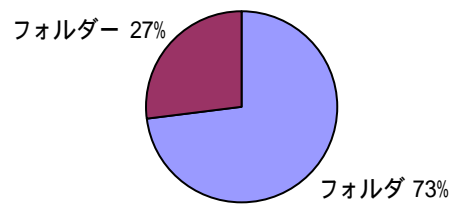
Q3-20



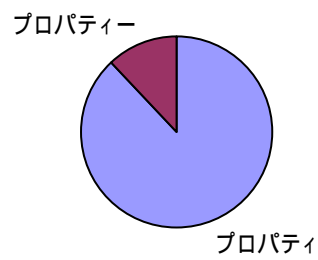
Q3-21



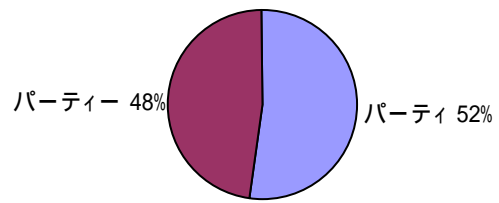
Q3-22



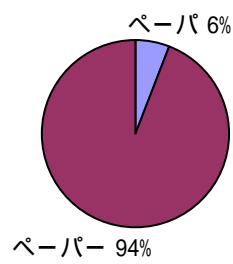
Q3-23



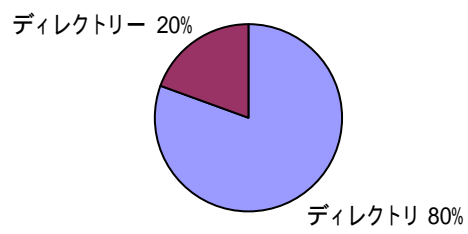
Q3-24



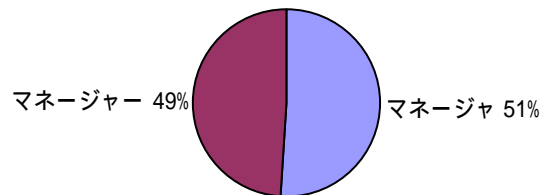
Q3-25



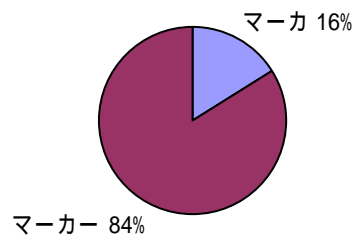
Q3-26



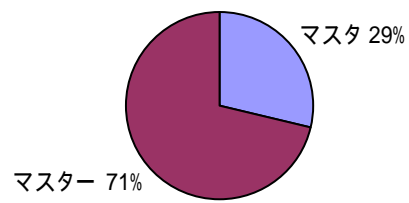
Q3-27



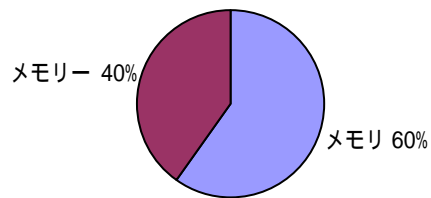
Q3-28



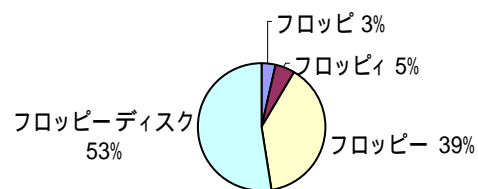
Q3-29



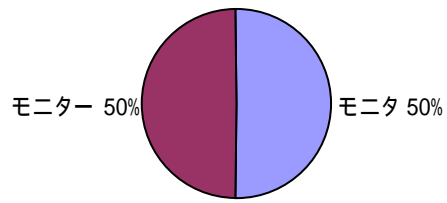
Q3-30



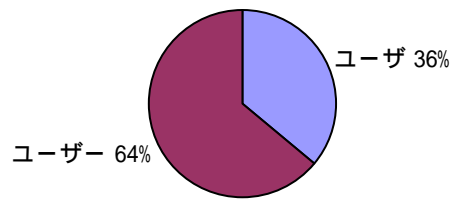
Q3-31



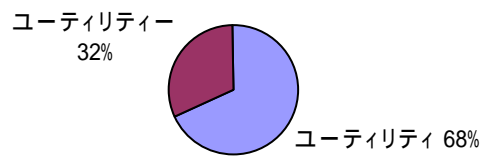
Q3-32



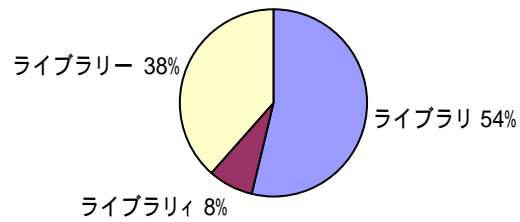
Q3-33



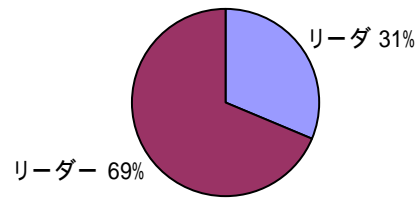
Q3-34



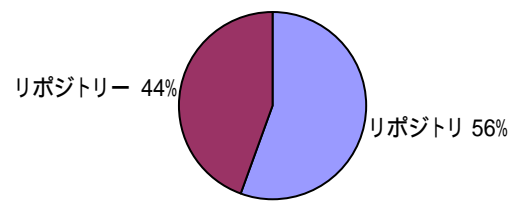
Q3-35



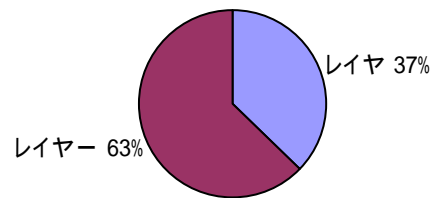
Q3-36



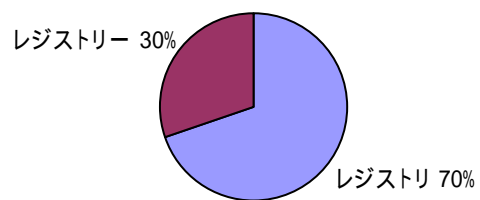
Q3-37



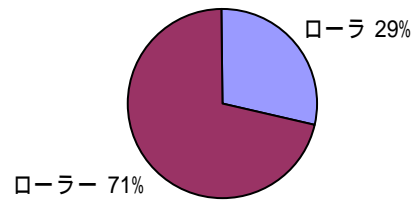
Q3-38



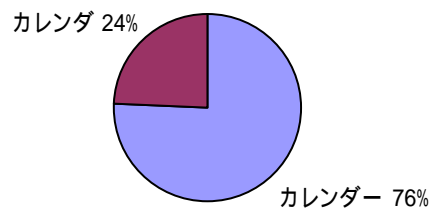
Q3-39



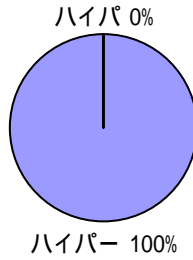
Q3-40



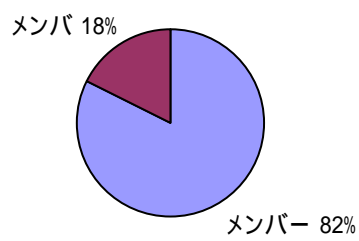
Q3-41



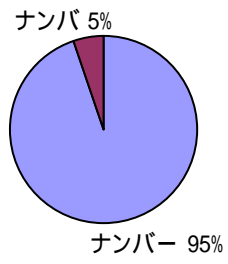
Q3-42



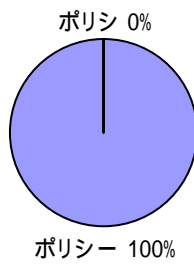
Q3-43



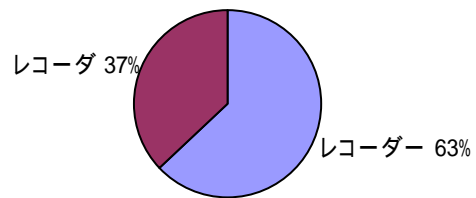
Q3-44



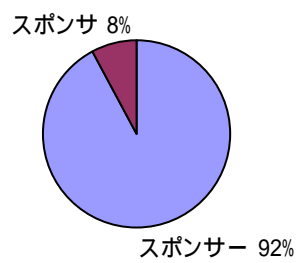
Q3-45



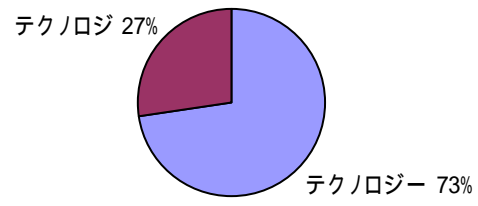
Q3-46



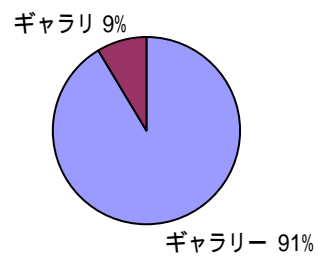
Q3-47



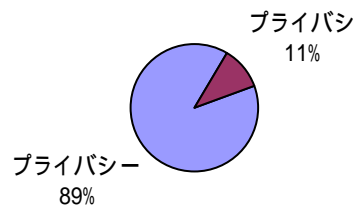
Q3-48



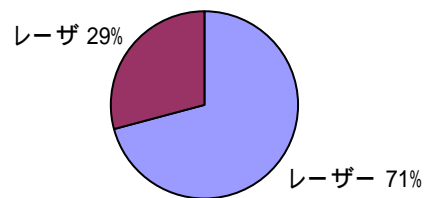
Q3-49



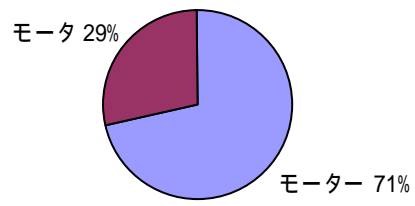
Q3-50



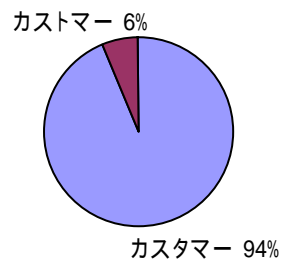
Q3-51



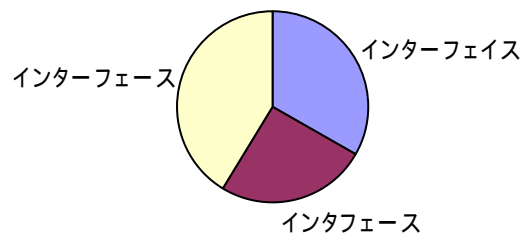
Q3-52



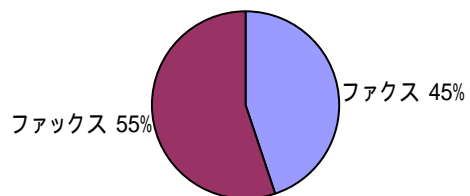
Q3-53



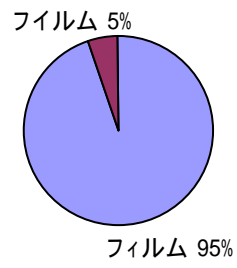
Q3-54



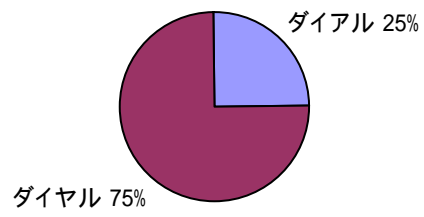
Q3-55



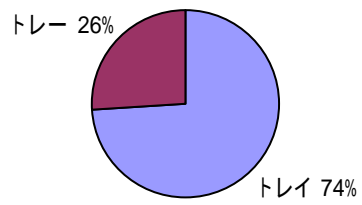
Q3-56



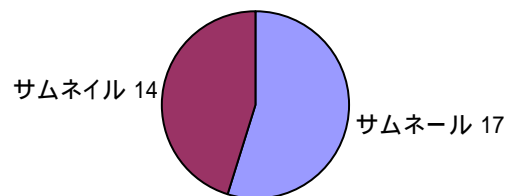
Q3-57



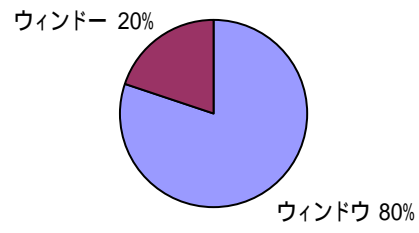
Q3-58



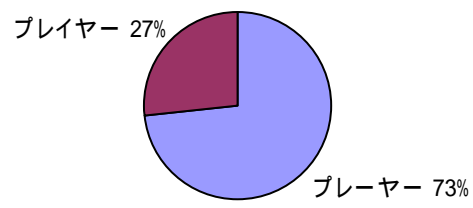
Q3-59



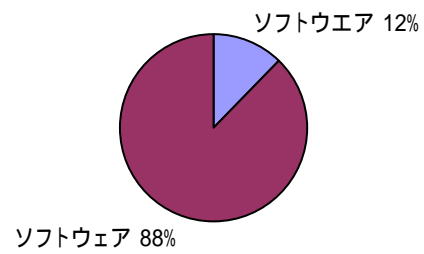
Q3-60



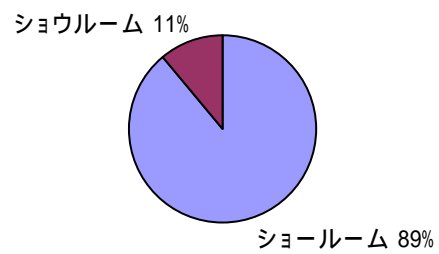
Q3-61



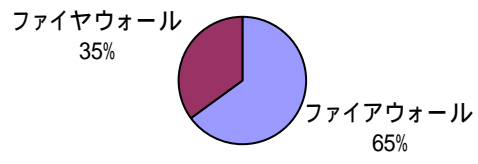
Q3-62



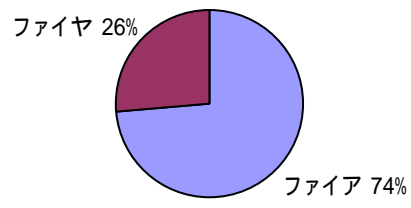
Q3-63



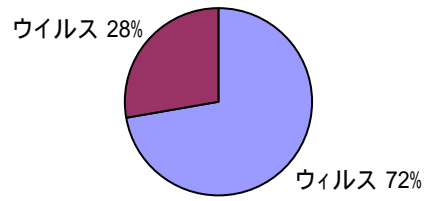
Q3-64



Q3-65



Q3-66



上記以外に、貴社またはあなたの組織で揺れている（ばらついている）カタカナ表記がありますか。

- ヘッドホン/ヘッドフォン、イヤホン/イヤフォン
- セミナー/セミナ、デジタル/ディジタルなど
- 語末に音引きのある語句
- ウェブ/ウエブ/ウエーブ
- スーパーバイザー/スーパーバイザ
- ...その他、一般的に使用されている表記が社内のガイドラインと異なる場合
- スピーカー/スピーカ、メロディ/メロディー、ポインタ/ポインター、タグ/タブ、コード/ケーブル、デバイス/ディバイス
- クライアントごとに多くの表記がばらついています。
- 基本的に、単語の語末に長音記号がくるものはバラツキが多い
- ウィンドウ/ウィンドウ
- 同じスペルでもダイアログ、ダイヤルなど別のカタカナにしている場合がある
- バッテリー/バッテリー、アダプター/アダプタ
- ファイヤーウォール/ファイアーウォール
- フロッピーディスク/フロッピーディスク、プレーヤ/プレーヤー、など長音符号をつけるかつかないか
- インデックス/インデクス、ビューアー/ビューワ
- カスタマ、デジタル、ディジタル
- 英語の語末の er、or、ar、y などをカタカナで表示する場合、原則として長音符号を用いる。ただし、慣用またはその専門分野における用語により、長音符号を省くことが一般的

となっている

- パソコンなどのように短くして表記する言葉
- プレーヤ/プレーヤー
- ディレイ/ディレー
- XX アダプター / アダプタ

- 慣用的に使われる言葉には「長音」をつけない。ただし「センター」「ナンバー」は、「 - 」がついた言葉として一般に普及しているため例外とした
- メロディとメロディー
- バッテリー/バッテリー
- 略称の記述が増えてきた(省エネ、PC、パソコン、エコなど)
- デジタル/デジタル

Q4 : 貴社またはあなたの組織における現状カタカナ表記での課題、問題点は何ですか。

- 顧客から提供されているガイドラインと、コンピュータソフトの用語やJISなどの表記との整合がとれていないそのため、どの表記を使用すべきなのか判断しにくい
- 弊社はメーカからの依頼によってマニュアル(ドキュメント)を制作する会社(組織)です。したがって、お客様仕様により色々なケースがある。しかし、規定等がお客様にない場合は、弊社で統一(可能な限り)して提供しているのが現状。(お客様に統一に関する認識がうすい)
- 客先から指示がある場合 指示に従う。客先から指示がない場合 客先の関連文献を参照するか、弊社から提案する。しかし、自組織で統一された基準はなく、外部の文献に頼っている。
- クライアント毎に規定が違うこと
- クライアントによって、表記指示が異なるため、校正指示が統一できない
- 文章・用字用語ハンドブック(日経BP出版センター)をベースに運用しているが、用例が少なく、用例集を作成する必要性がある
- カタカナ複合語の表記で各語の間にスペースを入れるか、入れないかに統一がとれていない。
- ソフトウェアが画面に表示するメッセージなどの用字用語が、メーカーの社内規格の例外となっているため、取説上の用語不統一を忍ぶか、表示メッセージに合わせて統一するかが、顧客の事業所ごとにバラつく。
- クライアントごとに表記をかえるのが、面倒といえば面倒です。
- 入力業務がほとんどの為、社内標準はない。編集済みデータはバラツキが多い
- 社内標準とJIS等の社外標準、規格等との整合がとれていない。また社外標準、規格等もばらついており、どれを採用して良いか判断がつかない。
- カタログ、マニュアル、ユーザーインターフェイスと各メディアでの統一が取れていない。とくに印刷物は基本的に国語審議会系であるが、画面内はWindowsなどのosとの整合もあり、使い分けをせざるを得ない状況にある。長音を伸ばす、伸ばさないが大きく言って、カメラ事業と事務機事業とで異なる。今後は伸ばす方向で改訂したいのだが。

- 日本語で表現できるものがカタカナ表記されている（例：ねじ、はがき）一般の人が理解できないようなカタカナ用語がまかり通る
- 新しい用語への対応が遅れる。結果としてマニュアルごとにばらつきにつながる用語集とソフトウェア/OSなどの表記が異なる対応。基本的にソフトウェアやOSの操作説明の場合、それらの表記に従いますが、紙面で2つの表記が混在することになってしまう

- 商品ごとに使用する表記が異なる。これは所属する工業会間での統一が取れていない。社内ルールで業界標準に従うことにしている
- パソコンのソフトウェアで使われているためそのまま表記しているものと一般的な意味で使っているカタカナが統一されていない場合がある。例えば本文では「コンピューター」と書いているが、Windows の画面の説明では「コンピュータ」と書く、など。
- 当部署では和文マニュアルの実績があまり多くないため、現状では該当製品の刻印、画面表示、及び慣例に従った表記となっています。慣例的な表記と画面表示が異なるケースがあります。
- コンピューターのマニュアルでは長音記号を止めることになり、製品間での表記の違いが出ている
- 用語ハンドブックはあるものの使われ方がばらついているのが現状。使われ方のばらつきは、民生機器内で生じている。業務用機器は、専門用語についておおむね語末をトルで統一されている
- マニュアル制作会社に共通する問題かもしれないが、PC のマニュアルで得意先のガイドラインに準拠して執筆しようとする、異なる表記法の用語が画面に表示されることがあり、対処に困ることが多い
- 機器、取説、カタログの表記の整合が取れていない場合がある
- 問題視されないこと、意味が通じればよいという考えもあり、表記統一に積極的でない
- 明確な基準がない、統一的な基本ルールがない
- コンピュータ用語はこれからも新しいものが続々と日本には入ってくると思うが、それらの語を表記する（カタカナで）時の規則がない
- 語末の長音を省略する傾向にあるが、それが一般の人たちにはなじめないのではないかという心配（社内向け規則を社外向けのマニュアルなどに適応することの非を訴えているが、なかなか上位者・責任者に分かってもらえない）
- 画面設計とのフェーズがあっていないことがある（画面に表示される表記がマニュアルで決めている表記と異なる）

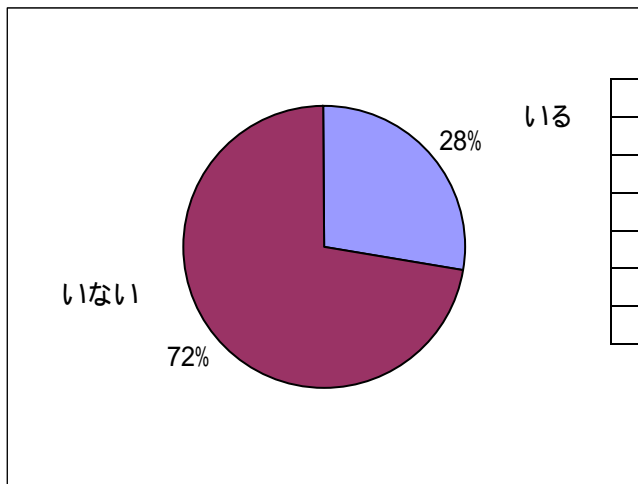
- フルドット表示パネルで使用されるメッセージとキャラクタパネルで使用されるメッセージ表記の統一
- 長音に関して言えば、基本的に JIS に従い長音をカットするような決まりであるが、一般的な用語は例外として長音をつける場合があり、その線引きが難しい
- 長期間にわたり、メンテナンスがなされていないこと
- ソフトウェアの GUI 上の表記と、部内ルールが異なる場合があること

- 4文字以上の場合「 - 」の有無がばらついてしまう
- パソコンメーカーなどの表記画面の説明は、長音を使用していない。当社の取説などは同じ説明を長音をつけていて違和感がある
- 我々がしようとしている表記と、Windows の表記が食い違っている
- カタカナ表記方法が浸透していない（音引きなどに関する表記方法）
- また指示する人により個人差での問題もあり、取説など最終校正段階での確認など無駄な時間を費やすケースが目立つ
- 本体表示が、一般的でない表示のとき、それは名称のため従わざるを得ない場合
- 技術用語として表記が決められる事が多く、新聞雑誌などで使用される表記と異なることが多い。
- 新しい用語について表記が定まっていない
- 語末音引きは極力避けるなどの大まかな基準はあるが、それからはずれるものでも一般的に通用しているものを優先 させることがあり、あいまいになってしまう部分がある

Q5 : 貴社またはあなたの組織では、用語に関するルール(規定)づくりの専門家や担当者がいますか。

いる (28%)

いない (72%)



いる場合の人数	社数
1人	5社
2人	2社
3人	2社
4人	1社
10人	2社
20人	1社

以上

カタカナ用語表記に関するアンケート報告書(2003年10月実施)とその所見

(別紙 62～78 ページ)